

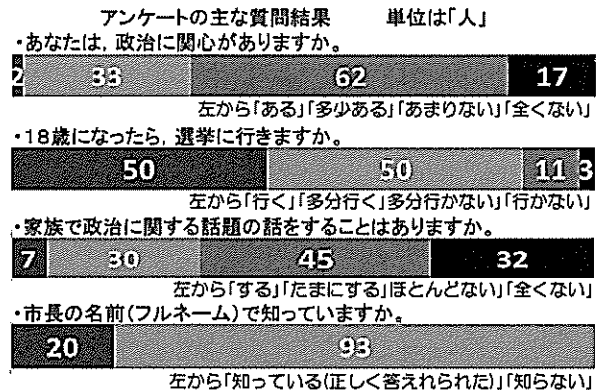
社会科学学習指導案

日時：平成30年11月13日（火）第5校時
 場所：北舎2階 3年C組教室
 学級：3年C組（男子16人 女子16人）
 授業者：遠藤 啓太

1 単元（題材）における生徒の実態 単元名「地方自治と私たち」

本単元では、地方自治に関する基礎的な知識や、地方公共団体の仕事や役割、地方公共団体が抱えている課題とその捉え方を理解し、地方自治のこれからや自分自身の地方自治への関わり方に対する考えを深めることができることをねらいとする。また、この単元で身に付けた地方自治に関する知識・理解や、高めた関心・意欲を総合的な学習の時間（『学びを広め、深める』『自己の生き方、活かし方を学ぶ』）で考えていく「自分の将来と重ねた恵那市の未来についての提言」において、恵那市や自分が住んでいる地域の問題について、当事者意識をもって進んで考えられているか見届ける。

政治に対する生徒の認識を測るために、事前アンケートを実施した（10月2日・3日実施）。主な質問結果をまとめたものが、右のグラフである。政治への関心は決して高いとはいえず、「政治は難しい・身近に感じられない」を理由として挙げる生徒が多くいた。一方で、「選挙に行くか」への質問に対しては、ほとんどの生徒が「行く」「多分行く」と答えている。このことから、身近な題材から地方自治を考えていくことを通して、関心を高めるとともに、よりよい地方を考えて1票を投じたり、積極的に地方自治に参加したりすることのできる生徒の育成を目指す。



2 研究の主張点

（1）研究内容1＜「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫＞

単元を貫く課題を「よりよい恵那市にするために、私たちは、地方自治にどのように関わっていけばいいのだろうか」と設定する。本単元では、地方自治に関する基礎的な知識や、地方公共団体の仕事や役割、地方公共団体が抱えている課題とその捉え方を「習得」する授業と、地方自治に対する自分の考えをもったり、地方自治への関わり方に対する考えを深めたりする「活用」の授業に分けて単元を仕組み、その関連性を単元構想図に示した。（単元構想図参照）また、構想図に記した各時間の出口の姿の文言を線でつなぐことで関連を明確にした。

（2）研究内容2＜一人一人が課題解決できる手立ての工夫＞

①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

「主体的な学びを促す工夫」と、「対話的な学びを促す工夫」の二点に分けて手立ての工夫を考えた。まず、「主体的な学びを促す工夫」として、生徒にとって必然のある学習課題の提示を行う。具体的には、本時では、地方公共団体をよりよくするために首長が掲げている政策に注目する。地方公共団体をよりよくする政策として、「まちづくり」や「子育て支援」「雇用の創出」がキーワードになるのは、生徒も理解できる。そんな中で、恵那市長は「たべる」を政策の柱の一つとして掲げている。近隣市長の政策との比較からも特異であることを踏まえて、『たべる』がよりよい市につながるのかという課題意識から主体的な学びを促す手立てとする。

次に「対話的な学びを促す工夫」として、グループ交流における課題追究の構造化を行う。市長の「たべる」という政策を追究していくと、「健康の増進」「農業の活性化」「観光の活性化」といった多面性が見えてくる。また、これらが結びついたり、重なったりすることで「財政の健全化」や「急激な人口減少の緩和」が見込めることが見えてくる。そのような多面性をグループ交流の場面で、各班が模造紙に工夫して構造化し、課題追究を視覚化することで対話的な学びを促す手立てとする。

②学びの状況を実感できる授業終末の工夫

導入で提示した本時の学習課題について、課題の提示直後にそれに対する予想をワークシートに書き残すことで、導入時点での各自の認識を明らかにする。その記述の内容と、授業のまとめの段階における深まった認識をもった自分とを比較することで、学びの状況を実感させる。あわせて、それを本時のまとめ（振り返り）に書かせることで生徒の変容を見届ける。

4 本時のねらい

恵那市長が掲げている政策を読み解く活動を通して、地方自治の課題になっている「急激な人口減少」や「財政の健全化」を恵那の特徴に合った政策で克服しようとしていることに気付き、地域の一員としての地方公共団体や地方自治への関わり方について考えることができる。

5 本時の展開 (7/7時)

過程	学 習 活 動	教師の指導・援助		
つ か む 考 え る	<p>1 前時の振り返りと恵那市と近隣市の市長の政策を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵那市に限らず多くの地方公共団体が抱えている課題が、「急激な人口減少」と「財政の継続(健全化)」である。 ・恵那市長の政策は、「はたらく」「たべる」「くらす」である。 ・近隣市(中津川市・瑞浪市・土岐市・多治見市)の市長の政策と比べると、「はたらく」と「くらす」は共通するが、「たべる」が独特である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>恵那市長は、なぜ「たべる」で恵那市の財政の健全化や、急激な人口減少の緩和ができると考えているのだろう。</p> </div> <p>2 課題に対する予想を交流する。</p> <p>3 配付資料をもとに個人で課題について追究する。</p> <p>4 個人で追究したことを班で交流する。</p> <p>5 班で交流した意見を全体で交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>市民が「たべる」ものは市民で作ることで「農業の活性化」を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を進め、消費が増えることで、農業で雇用が生まれる。 ・余剰農作物を他市に販売することで利益が生まれる。 →耕作放棄地の活用 →学校給食での「地産地消」「食農教育」の推進 →恵那食農ポータルサイト「たべとる」の開設 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>観光客に郷土料理を宣伝することで「たべる」で「観光の活性化」を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な恵那市の郷土料理(食文化)を宣伝することで、観光客の増加が見込め、地域が活性化する。 ・観光客の増加が、雇用と恵那市の税収増を生み出す。 →恵那市観光物産展の開催 →恵那五平餅MAPの作成 →郷土料理教室の開催 </td> </tr> </table> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⇒「財政の健全化」(歳入の増加) ⇒「急激な人口減少の緩和」(人口流出の抑制・人口流入の増加)</p> </div> <p>6 深めの発問を行い、地方自治への関わり方について考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>恵那市長が政策として掲げている「たべる」に期待しているのは、恵那市の財政の健全化や、急激な人口減少の抑制だけだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「財政健全化」や「急激な人口減少の抑制」以外に、「たべる」を進めることで得られるであろう恵那市への効果を班で考えることで政策に対する市長の思いを追究する。 ・班ごとに追究したことを交流すると共に、「たべる」に込めた市長の恵那市に対する想いや恵那市民へのメッセージを紹介する。 ・市長は、「たべる」を通して市民の中に新しいつながりが生まれ、それが恵那市の活性化につながることを期待している。人とのつながりから市民自らが恵那の魅力に気付き、そのよさを活かした活動を考えて行ってくれることを期待していることに気付く。 <p>7 本時のまとめを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>市長が「たべる」を政策の一つに掲げているのは、恵那の特徴を活かして、財政を健全化しようとしたり、恵那市の活性化を図ろうとしたこと分かった。市長を中心にこういった取組を恵那市がやっていることを知らなかったのも、もっともっと恵那の地方自治について知らないといけないと思った。また、今行われていることを知っただけでは恵那市はよくなると思わない。市長や恵那市が考えていることについて、一緒に考えたり、意見したりできる市民でありたい。総合的な学習の時間では、自分自身の将来と重ねて恵那市の将来について考えている。今日までに地方自治の学習で学んだことを、まずは総合的な学習の時間で活かしていきたいと思う。</p> </div>	<p>市民が「たべる」ものは市民で作ることで「農業の活性化」を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を進め、消費が増えることで、農業で雇用が生まれる。 ・余剰農作物を他市に販売することで利益が生まれる。 →耕作放棄地の活用 →学校給食での「地産地消」「食農教育」の推進 →恵那食農ポータルサイト「たべとる」の開設 	<p>観光客に郷土料理を宣伝することで「たべる」で「観光の活性化」を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な恵那市の郷土料理(食文化)を宣伝することで、観光客の増加が見込め、地域が活性化する。 ・観光客の増加が、雇用と恵那市の税収増を生み出す。 →恵那市観光物産展の開催 →恵那五平餅MAPの作成 →郷土料理教室の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りで、「急激な人口減少」と「財政の継続(健全化)」が課題であることを確認し、それらの克服のために東濃5市の市長がどのような政策を掲げているか確認・比較する。 <p>【研究内容2-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの市長の政策の比較から、恵那市長の他にはない政策に気付かせ、学習課題を焦点化する。 <p>【学習状況の見届け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料を読み取る活動を観察し、課題追究ができているかどうかを見届ける。 ・活動に取り組めていない生徒配付資料のどれか1つに注目して、活動に取り組めるようにする。 ・読み解きが1面で終わっている生徒資料を的確に読み取れていることを確認し、読み解いていない資料に着目させ、別の視点から課題追究できるようにする。 ・多面的に読み取れていることを確認し、それらのつながりから見えてくる恵那市への効果を追究できるようにする。 <p>【研究内容2-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で追究したことを模造紙に構造的にまとめる方法を用いて、「たべる」という政策の効果について視覚化し、対話的な学びを促す。 <p>【研究内容2-②】(定着状況の見届け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題提示直後にワークシートに記した予想と授業を通して深めた自分の認識とを比較する方法を用いて、政策をより多面的に読み解き説明できるようにしていることを実感できるようにする。また、その変容から定着状況を見届ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価規準(思考・判断・表現) ＜ノート記述＞ 恵那市長が掲げている政策を読み解く活動を通して、地方自治への関わり方や積極的に関わっていくことについて自分の考えを書いている。</p> </div>
<p>市民が「たべる」ものは市民で作ることで「農業の活性化」を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を進め、消費が増えることで、農業で雇用が生まれる。 ・余剰農作物を他市に販売することで利益が生まれる。 →耕作放棄地の活用 →学校給食での「地産地消」「食農教育」の推進 →恵那食農ポータルサイト「たべとる」の開設 	<p>観光客に郷土料理を宣伝することで「たべる」で「観光の活性化」を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な恵那市の郷土料理(食文化)を宣伝することで、観光客の増加が見込め、地域が活性化する。 ・観光客の増加が、雇用と恵那市の税収増を生み出す。 →恵那市観光物産展の開催 →恵那五平餅MAPの作成 →郷土料理教室の開催 			
深 め る				
ま と め る				